

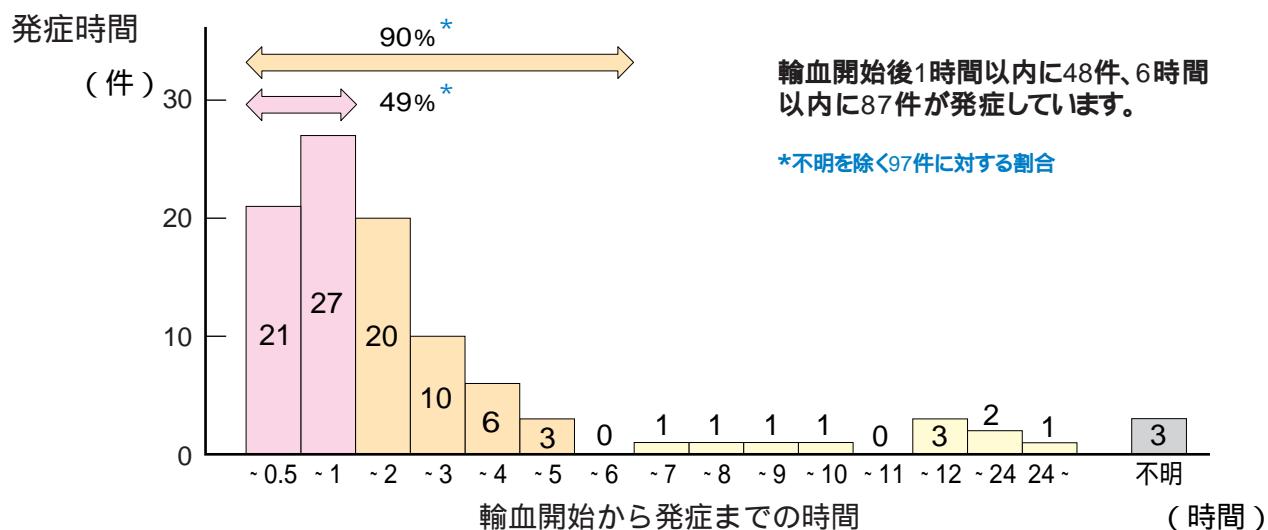
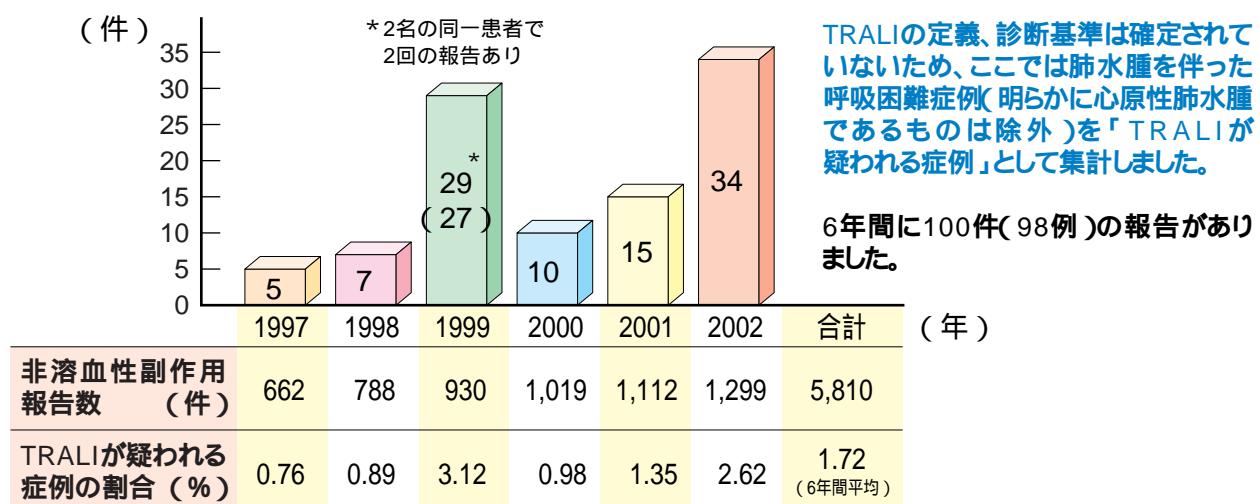
輸血情報

【赤十字血液センターに報告された輸血関連急性肺障害が疑われる症例 - 1997~2002年 -】

1997年から2002年までの6年間に、赤十字血液センターに報告された呼吸困難症例のうち、肺水腫を伴ったものを「輸血関連急性肺障害(TRALI:Transfusion-Related Acute Lung Injury)が疑われる症例」として解析した結果を示します。

赤十字血液センターに報告されたTRALIが疑われる症例 - 1997~2002年 -

TRALIが疑われる症例の報告数と非溶血性副作用報告に占める割合の推移



輸血製剤別報告数と報告頻度 (対供給本数: 概数)

輸血製剤	報告数	供給本数	報告頻度
赤血球M・A・P製剤	42	2,005万	1 / 48万
新鮮凍結血漿製剤	9	1,309万	1 / 145万
濃厚血小板製剤	30	423万	1 / 14万
全血製剤	1	47万	1 / 47万
洗浄赤血球製剤	1	21万	1 / 21万
その他の製剤	0	39万	-
複数種類の輸血製剤	17	-	-
計	100	3,844万	1 / 38万

ここに示した頻度は、あくまで医療機関から赤十字血液センターに報告された症例の解析に基づいたものであり、実際のTRALI発症頻度ではありません。

患者背景

疾患

血液疾患	40 例
固 形 癌	16 例
心 疾 患	17 例
肺 疾 患	9 例
腎 疾 患	12 例
感 染 症	18 例

性別

男 性	51 例
女 性	47 例

その他

手 術	13 例
G-CSF製剤 [*] 使用	14 例

医療機関からの報告に基づいて集計したものであり、例数には重複分が含まれています。

* 一般名：ナルトグラスチム、フィルグラスチム、レノグラスチム等
G-CSF(顆粒球コロニー刺激因子：
granulocyte-colony stimulating factor)
好中球の産生と機能を特異的に亢進させる
生理活性物質

抗白血球抗体の検査結果 - 1997 ~ 2002年 -

TRALIの原因として、輸血製剤中あるいは患者血液中の抗白血球抗体の関与が考えられていることから、それぞれの抗HLA抗体および抗顆粒球抗体を検査しました。

その結果、報告された症例の半数以上にあたる54.3%で、輸血製剤中あるいは患者血液中からいずれかの抗体が検出されました。また、交差試験が陽性の症例が10件あり、抗白血球抗体の存在がTRALI発症に関与している可能性が示唆されました。

輸血製剤中あるいは患者血液中の抗白血球抗体検出率

抗白血球抗体 検出率	内 訳			抗HLA抗体及び 抗顆粒球抗体
	抗HLA抗体 単独	抗顆粒球抗体 単独	抗HLA抗体及び 抗顆粒球抗体	
輸血製剤中	27.7%	13.8%	11.7%	2.1%
患者血液中	32.3%	13.1%	15.2%	4.0%
輸血製剤中 又は 患者血液中	54.3%			

検出された抗白血球抗体の交差試験

	輸血製剤中		患者血液中		抗白血球抗体 陽性件数
	抗HLA抗体	抗顆粒球抗体	抗HLA抗体	抗顆粒球抗体	
抗体陽性	15	13	17	19	52 ^{*1}
陽性	4	2	2	2	10
交差試験	陰性	4	3	2	6
	N.T. ^{*2}	7	8	13	17
					36

*1 いずれかの抗体が陽性の件数(12件で複数の抗体が陽性)

*2 判定不能を含む

TRALIが疑われる症例が発生した場合には直ちに輸血を中止し、胸部X線撮影等の検査を行うとともに呼吸管理等適切な処置を行ってください。また、速やかに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

また原因究明のために、使用された製剤及び患者さんの検体(使用前後)、臨床検査関連情報等の提供をお願いします。なお、使用された製剤はできるだけ清潔な状態で冷所に保存しておいてください。

関連情報

輸血情報No.68(0201-68)【輸血関連急性肺障害にご注意ください】

輸血情報No.82(0403-82)【症状が改善・回復した輸血関連急性肺障害が疑われる症例】

発行元

日本赤十字社 血液事業本部 医薬情報課

〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号
秀和芝パークビルB館14階

ホームページ <http://www.jrc.or.jp/mr/top.html>

* お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者へお願いいたします。